

大豆食品の摂取ですい臓がんリスクが高まる

すい臓がんは早期発見が難しく予後が不良であるため、発症予防戦略が必要であるが、すい臓がんの発症に関連する生活習慣の危険因子はほとんど分かっていない。大豆には様々な生理活性化合物が含まれているが、大豆食品の摂取とすい臓がん罹患のリスクとの関連は不明である。本研究では、日本全国の地域住民を対象とした多目的コホート研究（JPHC 研究）において 90,185 例を追跡し、大豆食品の摂取量とすい臓がん罹患との関連を検討した。

中央値で 16.9 年の追跡期間中に 577 例のすい臓がんが確認された。多変量補正モデルで解析した結果、大豆食品の総摂取量では摂取量が最も多い第四分位群では、最も少ない第一四分位群と比べてすい臓がんの罹患リスクが有意に高かった（ハザード比 1.48）。また、大豆食品のうち非発酵性大豆食品（豆腐や油揚げなど）の摂取量の多さとすい臓がんの罹患リスクの増大にも有意な関連がみられた（ハザード比 1.41）。一方、発酵性大豆食品（味噌や納豆）の摂取量とすい臓がんの間には有意な関連はみられなかった。

今回の研究から、大豆食品のうちでもとくに非発酵性大豆食品の摂取がすい臓がんの罹患リスクを高める可能性があることが示唆された。

出典：Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention. 2020 Jun; 29(6): 1214-1221.